

日仏防災イベント週間が仙台で開催されました (2017/10/5-6)

テーマ：津波、防災、国際連携、フランス
場所：災害科学国際研究所（宮城県仙台市）、仙台平野（宮城県）

平成 29 年 10 月 2—6 日に東京にあるフランス大使館と日仏会館で日仏防災イベント週間が開催され、当研究所の主催セッション “Scientific Advancement for Sendai Framework for Disaster Risk Reduction Contribution from Tohoku University” が 10 月 4 日（水）に日仏会館で開催されました。

また、10 月 5 日（木）には、災害科学国際研究所棟の多目的ホールで当研究所主催・最後のセッション “Session 4 Crisis management and reconstruction/BBB (build back better)” が開催されました。本セッションは今村文彦所長が全体の司会を務め、情報管理・社会連携部門のポレー・セバスチャン助教（災害アーカイブの役割）、野家啓一東北大学名誉教授（防災と宗教の観点）、福島大学理事・副学長の小沢教授（福島県の復興）、アスヘノキボウ代表理事の小松洋介氏（女川町の復興）、東北大学地域復興プロジェクト “HARU”（学生ボランティア活動）による発表が行われ、その後のサッパシー准教授による討論では、日仏の学生交流、福島と女川の復興における教訓の共有とこれからの連携・交流について意見交換と議論が行われました。

10 月 6 日（金）は仙台平野の津波被災地巡検が行われました。サッパシー准教授が巡検参加者に同行し、各訪問場所について説明しました。巡検のルートは、多賀城市 末の松山、仙台市津波避難タワー、旧荒浜小学校、荒浜海岸、名取市 閑上地区、岩沼市 千年希望の丘でした。巡検参加者は理工学的及び歴史・社会的な観点で見学し、都市型津波の特徴及び多重防御対策、現在の復興状況に関する知見を被災地で得ることができ、またこれからの防災研究についても現場で意見交換する機会が設けられ、大変有意義な巡見となりました。

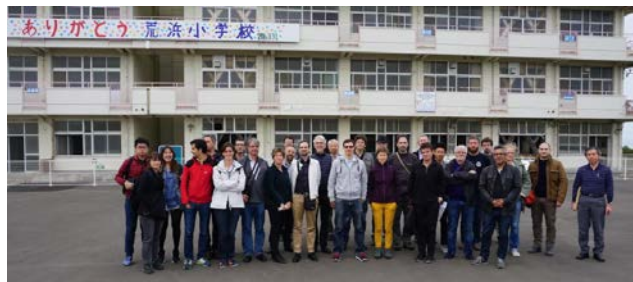
詳細：<http://www.fri.niche.tohoku.ac.jp/workshop2017/index.html>
<https://www.mfjtokyo.or.jp/events/co-sponsored/20171002.html>



当研究所でのワークショップの様子



仙台市津波避難タワー訪問の様子



旧荒浜小学校訪問の様子

文責：今村文彦、サッパシー・アナワット（災害リスク研究部門）
ポレー・セバスチャン（情報管理・社会連携部門）